

文化資本獲得と社会関係資本形成との関係性

——「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」オーディエンス調査より——

信州大学 辻 竜平

1. 目的

家族由来の文化資本と、さまざまな経験を通して自ら身につけた文化資本（自己由来の文化資本）がある。たとえば、家では古典派のクラシック音楽がかかっていたが、中学校で吹奏楽部に入って近現代のクラシック音楽に目覚めた場合には、両方の文化資本を持っていることになる。

文化資本の獲得と社会関係資本の形成との関係性についてはよく分かっていない。本研究では、文化資本が家族由来か自己由来かによって、さまざまな活動において交際する他者が異なることから、形成される社会関係資本に違いが生じるのではないかという可能性について探索的に検討する。

2. 調査法と変数

クラシック音楽の音楽祭「サイトウ・キネン・フェスティバル松本」(SKF)の聴衆を対象にした調査票調査を行った*。実施時期は2012年8月で、合計2000票を配付し、610票を回収した。

文化資本:「クラシック音楽を聴くようになったきっかけ」7項目(4件法)について確証的因子分析を行い、家族や習いごとにかかわる「家族からの影響」(家族由来)因子と、メディアや授業を通じた「自己による認識」(自己由来)因子を分離した。両因子の得点が高い低い人もいたので、「両方影響なし」「家族からのみ」「自己のみ」「両方影響あり」の「文化資本4カテゴリ」に分類した。

社会関係資本:コミュニティ内の活動や評価について探索的因子分析を行い、「コミュニティの行事」「コミュニティの日常的活動」「コミュニティへの評価」の3因子を得た。

ネームジェネレータ:SKFに出かけた人を含めた身近な人々7人について、間柄等について尋ねた。間柄については、5つの間柄を示し、そのような間柄の人と出かけたかについてバイナリ変数とした。12種類の活動についても、そのような活動をともにした人がいるかのバイナリ変数とした。

3. 結果と結論

「文化資本4カテゴリ」と、SKFに出かけた人との間柄との関係について χ^2 検定を行ったところ、「配偶者・家族・親戚」のみと関係が認められた($p<.05$)。残差分析を行ったところ、クラシック音楽を聴くきっかけは「家族からのみ」の人が有意にSKFに出かけていることがわかった。

「文化資本4カテゴリ」と、SKFに出かけた人とともにする12の活動の各々について χ^2 検定を行ったところ、まず、「音楽祭や音楽会での鑑賞」との関係が認められ($p<.05$)、残差分析から、きっかけが「家族からのみ」の人が、有意にともに鑑賞に出かけていることがわかった。また、「音楽の演奏」との関係も認められ($p<.01$)、残差分析から、「家族からのみ」の人が有意に多く、「両方影響なし」の人が有意に少ないことがわかった。

「文化資本4カテゴリ」と、社会関係資本にかかわる3因子との関係について1要因分散分析を行った。「コミュニティの行事」への参加については有意差はなかった。「コミュニティの日常的活動」については有意差があり($p<.01$)、多重比較の結果、「両方影響なし」<「両方影響あり」,「家族からのみ」<「両方影響あり」であった。また、「コミュニティへの評価」についても有意差があり($p<.001$)、「両方影響なし」・「家族からのみ」・「自己のみ」<「両方影響あり」であった。

SKFと一緒に来た人の間柄5つと、その人たちと行う12の活動について60回の χ^2 検定をおこなったところ、全体的には、「配偶者・家族・親戚」と多くの活動をしていることがわかった。

これらの結果より、文化資本を「家族からのみ」影響を受けた人は、家族とコンサートに行ったり、家族と音楽鑑賞や演奏を行ったりする。しかしこのような人は、コミュニティの日常的活動については、「両方影響あり」の人より行わないほか、コミュニティへの評価も低い。純粋に家族由来の文化的な影響を継承している人より、それに加えて、自ら家族から継承したものではない文化を開拓する人の方が、家族関係にとどまらず、近隣との社会関係を形成できるのではないかと考えられる。

* 科学研究費助成事業挑戦的萌芽研究「文化資本と社会関係資本の関連性：クラシック音楽祭参加者への調査によるアプローチ」(課題番号23653121, 研究代表者:辻竜平)